

令和元年6月22日現在

機関番号：32652

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2018

課題番号：26370477

研究課題名(和文) タンガニカ湖周辺の人々の移動と言語接触に関する研究

研究課題名(英文) Studies on people's migration and language contacts around Lake Tanganyika

研究代表者

阿部 優子 (Abe, Yuko)

東京女子大学・現代教養学部・准教授

研究者番号：80724442

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では当初、ターブワ語、ベンベ語の予備的調査を行ったもののコンゴ民主共和国の国内事情により現地調査が困難となった。そこで、(1)タンガニカ湖周辺言語全体の未完了アスペクトの分布、(2)タンザニア・ザンビアの言語についての形態統語的な体系的記述、という2種類の成果とした。

(1)の成果は、未完了アスペクト比較研究として口頭・論文にて発表した。(2)の言語記述については、バントゥ諸語の形態統語的特徴を比較するためロンドン大学SOASの研究チームが作成した142項目のMicrovariationパラメータを用いて整理し、ベンデ語データを出版した。その他の言語は準備中である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

タンガニカ湖は現在、タンザニア、ブルンジ、コンゴ民主共和国、ザンビアの4国の国境線をなしており、近代国家の成立以来、民族語はそれぞれの国の歴史を背景としてリンガフランカや英語・フランス語等の公用語との接触による変化が進んでいる。これらの民族語については限定的な語彙調査による言語分類が試みられているものの、それらの分類が人々の語りや民族誌と異なることもある。

そこで、限定的な語彙のみではなく、文法項目や特殊語彙(動植物名、鉄・土器に関する語彙)、さらに民族誌を総合的に記述することで、無文字社会の歴史の再構築に新たな資料を提供する。

研究成果の概要(英文)：The studies have started at the beginning with preliminary survey on Taabwa and Bembe languages of DRC where the further survey became impossible because of the domestic affairs. The outputs consist of two types; (1) the investigation covering the whole languages around Lake Tanganyika remained with a grammatical topic such as "imperfective aspects", and (2) languages in Tanzania and Zambia were described more systematically especially in morphosyntax.

Some outputs of comparative studies on imperfective aspects were presented and published, while some languages were segregated by 142 Microvariation parameters compiled by a project team from SOAS, University of London. Bende data of Microvariation have been published, while other language data are still on the process for publishing.

研究分野：言語学

キーワード：タンガニカ湖 バントゥ諸語 ベンデ・トンゲ語 Microvariation Persistentive 未完了アスペクト

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

#### 1. 研究開始当初の背景

本研究は、タンザニア、ブルンジ、コンゴ民主共和国、ザンビアの4国の国境線をなしているタンガニカ湖の周辺に暮らす人々の語られる移動の歴史と、民族語の言語記述を通じて言語接触の可能性を比較対照することで、語りと言語(語彙・文法)による歴史を再構築することを目的とする。具体的には、タンガニカ湖周辺で話される9言語(ベンデ・トンゲ語、八語、ホロホロ語、フィバ語、マンブエ・ルング語、ルンディ語、ターブワ語、ベンベ語、内陸スワヒリ語)を対象とし、語彙および文法特徴について記述、比較対照するものである。

ただし、研究開始年当初からコンゴ民主共和国では、国内でのエボラ出血熱の感染が確認されたことにより渡航が制限されており、同国内で話されているホロホロ語、ターブワ語、ベンベ語へのアクセスが極めて困難であり、非常に限定的なデータの収集となることが見込まれた。

#### 2. 研究の目的

タンザニア・ブルンジ・ザンビア・コンゴ民主共和国の4国の国境線をなすタンガニカ湖周辺に暮らす人々の移動と接触について、周辺で話される個別言語(ベンデ・トンゲ語、八語、ホロホロ語、フィバ語、マンブエ・ルング語、ルンディ語、ターブワ語、ベンベ語、内陸スワヒリ語)の諸現象および彼らの語りや民族誌(氏族、民話の共通性)を総合的に考察し、複眼的な言語接触や歴史的系統関係の考察を行う。特に言語について語彙・文法の諸現象の記述が限られている言語(ベンデ・トンゲ語、フィバ語、ホロホロ語、ターブワ語、ベンベ語)について、比較対照が可能なデータを収集する。

#### 3. 研究の方法

バントゥ諸語の形態統語的特徴を体系的に比較対照することを目的として、ロンドン大学 SOAS の研究チームが作成した142項目の Microvariation パラメーターを用い、語彙・文法の諸現象の記述が限られている言語(ベンデ・トンゲ語、フィバ語、ホロホロ語、ターブワ語、ベンベ語)の現地調査を実施した。ただし、ホロホロ語、ターブワ語、ベンベ語については、当該国への渡航が極めて難しい中、周辺国で話者を探して調査を行ったものの、時間的制約から極めて限定的な記述となった。

また、ベンデ・トンゲの民族誌については、現地コミュニティの協力を得て、コミュニティリーダーと共著で民族誌を収集し、執筆・出版(2017年)したが、その他の民族については、主に文献資料の収集を行い、整理した。

#### 4. 研究成果

本研究では、初年にターブワ語、ベンベ語の予備的調査を行ったもののコンゴ民主共和国の国内事情により現地調査が困難となった。そこで、(1)タンガニカ湖周辺言語全体の未完了アスペクトの分布、(2)タンザニア・ザンビアの言語についての形態統語的な体系的記述、という2種類の成果とした。これらの成果を得るために行った調査および活動の詳細は、次の通りである。

1年目(平成26年度)は、先行研究のデータ整理を中心とする文献研究(ターブワ語、内陸スワヒリ語)、以下の言語(ベンデ・トンゲ語、ターブワ語、ベンベ語、マンブエ・ルング語、ルンディ語、)の現地調査を行った。

2年目(平成27年度)は、ターブワ語とベンベ語について、追加の現地調査を行った。また、バントゥ諸語の文法現象の比較のための枠組みとして、ロンドン大学 SOAS の研究チームが提

案する Microvariation パラメーターを用いて、ベンデ・トンゲ語の文法調査、整理を行った。同時に、ベンデ・トンゲ人コミュニティの代表を務める Lumbwe 氏と共同で、民族誌の収集・編纂を開始した。

3 年目（平成 28 年度）は、上記ロンドン大学の研究チームとの連携を強化するため、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所にて、共同利用・共同研究プロジェクト（バントゥ諸語のマイクロ・バリエーションの類型的研究（フェーズ 1））をスタートさせ、国際ワークショップを開催した。また現地調査にてタンザニアにて、ベンデ・トンゲ語およびフィバ語の Microvariation を記述した。また、27 年度より継続してきたベンデ・トンゲ人コミュニティの民族誌を、コミュニティ代表の Lumbwe 氏と共同で出版した。

4 年目（平成 29 年度）は、新任校での業務および家庭事由により、研究を一時中断した。上記の共同利用・共同研究プロジェクトを進行することで、現地調査はできなかったものの、これまでの研究データを整理し、persistentive アスペクトに関する論文を執筆、投稿した。

5 年目（平成 30 年度）は、最終確認を行うための広域調査を実施したいと考え、とりわけコンゴ民主共和国への渡航を検討していたが、エボラ出血熱の蔓延のため、渡航が困難であると判断し、対象民族のコミュニティがあるとされるザンビアおよびタンザニアへ渡航した。タンザニアでは、ベンデ・トンゲ語およびフィバ語のデータのチェックをし、ザンビアでは特にターブワ人コミュニティを訪ね、ザンビアのターブワコミュニティの民族誌を収集したものの、ザンビアのターブワ人コミュニティではターブワ語が継承されておらず、ザンビア北部で地域共通語となっているベンバ語に置き換わっていることを確認するにとどまった。

(1)タンガニカ湖周辺言語全体の未完了アスペクトの分布の成果は、未完了アスペクト比較研究として口頭・論文にて発表した。(2)タンザニア・ザンビアの言語についての形態統語的な体系的記述については、バントゥ諸語の形態統語的特徴を比較するためロンドン大学 SOAS の研究チームが作成した 142 項目の Microvariation パラメーターを用いて整理し、ベンデ語データを出版した。その他の言語は準備中である。

## 5 . 主な発表論文等

### 〔雑誌論文〕（計 4 件）

ABE, Yuko “Morphosyntactic Variation of the Persistentive Aspect in Lake Tanganyika Bantu” in Eva-Marie Bloom Strom, Hannah Gibson, Rozenn Guerois, Lutz Marten (eds.) *Morphosyntactic Variation in Bantu*. London: Oxford University Press. 査読有、印刷中

ABE, Yuko “Bende (F12)” in *Descriptive materials of morphosyntactic microvariation in Bantu*. Tokyo:ILCAA, Tokyo University of Foreign Studies. 査読有、2019, pp.190-223.

ABE, Yuko “Event integration Patterns in Bende (Bantu, F12)” 『アジア・アフリカの言語と言語学 10 号』 Tokyo: ILCAA, Tokyo University of Foreign Studies. 査読有、2016, pp.157-178.

ABE, Yuko. “Persistentive in Bende -- On the grammaticalization path” 『アジア・アフリカの言語と言語学 9 号』 査読有、2015, pp.23-44.

### 〔学会発表〕（計 7 件）

ABE, Yuko. “Verb Categories in Bende (F.12)” The 7th International Conference on Bantu Languages. University of Cape Town (2018-07-10)

ABE, Yuko. “Toward Micro-variation Parameters of Persistentive in Lake Tanganyika Bantu” The 6th International Conference on Bantu Languages. University of Helsinki. (2016-06-22)

ABE, Yuko. “Event integration patterns in Bende (Bantu, F.12), with special focus on motion” 8th World Congress of African Languages. Kyoto University (2015-08-23)

KAWACHI, Kazuhiro, Yuko Abe, Osamu Hieda, Kyoko Koga, Junko Komori, Nobuko Yoneda, and Hiroshi Yoshino. “How African languages fit in Talmy’s typology of event integration”. 13th International Conference of Cognitive Linguistics. Northumbria University, UK. (2015-07-22)

KAWACHI, Kazuhiro, Yuko Abe, Osamu Hieda, Kyoko Koga, Junko Komori, Nobuko Yoneda, and Hiroshi Yoshino “Motion expression patterns in African languages” NINJAL International

Symposium Typology and Cognition in Motion Event Description. 国立国語研究所 (2015-01-25)

阿部優子「ベンデ語(タンザニア、バントウ)の持続相標示 si-/sya-」日本言語学会第148回大会、法政大学(2014-06-07)

阿部優子「Persistent アスペクトから見たベンデ語の辿った道」第51回日本アフリカ学会研究発表会、京都大学(2014-05-25)

〔図書〕(計 3 件)

Shinagawa, Daisuke and Yuko Abe (eds.) *Descriptive Materials of Morphosyntactic Variation in Bantu*. Tokyo: ILCAA, ISBN 978-4-86337-297-9. 2019, p. 439 + ix.

LUMBWE, Juma H., and Yuko Abe 『*Kabendeni. Historia fupi ya wilaya ya Mpanda-Katavi na watu wake, kabila la Wabende /The Short History of Mpanda District – Katavi Region: Bende Tribe and its People /カタヴィ州ンパンダ県小史：ベンデ民族とその人々*』 Tokyo: ILCAA, Tokyo University of Foreign Studies. 2017, pp.113.

MASHAKA, Yasini, Hamisi Kaboko, and Yuko Abe *Tusahule Shihhende (Tuongee Kibende)*. Tokyo: ILCAA, Tokyo University of Foreign Studies. 2015, pp.68.

〔産業財産権〕

○出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年：  
国内外の別：

○取得状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等：準備中

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号(8桁)：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施

や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。